

「国際金融都市 OSAKA 推進委員会」第 1 回幹事会
議事概要

○日時:令和3年6月8日(火)13時30分~15時30分

6月9日(水)10時30分~12時00分、13時30分~15時00分

○場所:オンライン開催

----- 6月8日(火)13時30分~14時00分 -----

【全体会】

1 開会

2 幹事長あいさつ

- ・国際金融都市 OSAKA の取組みにつきましては、昨年度末の設立総会におきまして、今年度の実施計画等をご承認いただいたところ。実施計画では、大阪の現状分析や課題整理を踏まえ、重点取組事項をとりまとめた戦略を今年度末に、また、それに先立って中間とりまとめとしての戦略骨子を、秋口に策定することとされた。
- ・第1回幹事会では、事務局にて作成したたたき台に基づき、戦略骨子策定に向けた議論を深めていく。今後、大阪がどのような国際金融都市をめざしていくのか、その大きな方向性、めざす都市像、戦略の柱などについて、この幹事会で認識を共有し、同じ目的に向けて歩みを進めていけたらと考えている。

3 副幹事長の選出について

大阪市鳥山幹事を指名

副幹事長あいさつ

- ・大阪の国際金融都市実現に向けた取組みは、チャレンジングなテーマだと承知しているが、この取組みを進めることにより、大阪への投資意欲の促進、新たなビジネスチャンスの創出につながればと考えている。
- ・この間、皆様方から、行政にはない視点、見識など様々なご意見を拝聴し、大変参考になった。ご指摘のあった大阪の強みやポテンシャル等は活かしながら、足りない部分は補強して、様々な課題に取り組んでいければと考えている。

4 ヒアリング報告と戦略(骨子)説明

5 閉会

【グループ幹事会】

1 開会

2 意見交換

検討事項① 戦略の方向性の検討

----- 6月8日(火)14時00分~15時30分 -----

【アドバイザー】

- ・ SWOT 分析を見ると強みがあまりない。そもそも現状どうなっているかの評価が非常に大事。もっと強みが潜在的にあるのではないかと、それを素材として集めることが大事。
- ・ 欠けている視点でいうと、国際金融都市ランキングが始まった頃から社会環境が大きく違っているのは、コロナによってデジタル化が進んだということ。金融というのは、デジタル化の影響を非常に受ける業種であり、コロナでデジタル化が進んだという視点なしに国際金融都市を考えていくことはできない。
- ・ 国際金融都市としての具体的なロケーションとデジタル化とのバランスをとる必要がある。デジタルは、都道府県どころか国境さえも越えてしまうもので、デジタル化によっても動かないもの、例えば地域の特性、地域に住んでいる人や地域にある法人は変わらない、そこに強みがある。デジタルでない部分で何が強いのか、デジタルの部分とリンクさせることによって強みを引き出していくためにはどうすべきかという視点が大事。

【幹事】

- ・ 金融はデジタルとの親和性が高い。デジタルの観点からもしっかり進められればよい。
- ・ 金融はどこからでも取引できるので、大阪取引所でのデリバティブ取引量が増えたとしても、取引所への注文は大阪外からでも可能であるから取引参加者が大阪に拠点を置く必要性は小さく、大阪の発展には直結しないと思う。
- ・ また、「国際」金融都市をめざしているにも関わらず国際的観点がほとんど盛り込まれていないという印象である。
- ・ 国内外から企業・研究機関や人材の誘致を推進すべきだが、具体的に誰が何をやるかを決めなければいけない。
- ・ まずは、行政の首長がビデオメッセージを作って世界に発信すること。かつ、府のホームページを外国人視点でもう一度作り直す、英語で調べられるように作り直すことが第一歩。
- ・ もう一つ提案したいのは、大手証券や外資系の証券会社などは、全世界からファンドマネージャーを東京に集めて、日本の会社や日本株の見通しを紹介するイベントを毎年やっている。そういった場で大阪の発信をすることがまず第一歩だと思う。

【幹事】

- ・ 外国企業誘致を行う上で、自治体の熱意、そして効果的な PR が重要であることはもちろん、外国企業にオープンであること、すなわち地域としての対外的開放性が重要。特に自治体等での英語でのサービス提供、対応能力を強化していく必要がある。
- ・ 外国企業にとって、大阪・関西でビジネスができるのか、そこに進出して利益が出せるかが大きなポイント。

ト。その意味で、外資系企業のパートナー、すなわち顧客あるいは協業先としての在大阪・関西企業の存在が重要と感じる。

- ・ つまり、官だけでなく民の視点を重視し、外国企業と地域の民間企業双方の利益を念頭に置きつつ、誘致をめざす必要がある。SDGs 目標達成でも民間企業の役割が重視されているが、外国企業誘致では民間企業が持つリソースも活用させて頂きながら、誘致を進めていくと良いのではないか。
- ・ 日系の証券会社がファンドマネージャーを日本に招待するといった取組みや、既存の金融業界の中で、外国のフィンテック企業との協業など、外国企業の誘致に結び付くものがあればオール関西でサポートしていくというのも検討の余地がある。

【幹事】

- ・ 今は、取引所自体はどこにあってもあまり関係がない。大阪取引所もシステムはすべて東京にあり、他府県の証券取引所も、昔の立会所がシステムになっているマッチングエンジンが、すべて東京にある。
- ・ 金融というのは拡大し、IT に近づいている。イノベーション、ビッグデータ分析が必要な時代になってきているので、オペレーションセンターを大阪に置くのではなく、何かを作り出す人の集積をめざしていくべきではないか。
- ・ 関西は、高等教育機関が人口の割にたくさんある。また、観光として京都・奈良があることから、人を集めるという施策をとることが大事ではないか。
- ・ 短期、中期、長期的ビジョンとなると、中期以上は人がいるかないかで決まる。短期的には万博もある。大阪をもっと宣伝して、人、具体的には学生や若いエンジニアが好んで住むまちを作っていくことによって、おのずから大阪にフィンテックなどが発展していくのではないかと考える。
- ・ アメリカでも、ファンドマネージャーがいるのはニューヨークだが、今イノベーションを起こしている企業は西海岸にある。関西もそれをめざしていくのがよいのではないか。

【アドバイザー】

- ・ 取引量は、個人がスペキュラティブ（投機的）なやり方で増やすこともできる。単純に取引ボリュームを世界一にしようという目標設定はミスリーディング（誤解を招く）。
- ・ 商品先物なら、産業のヘッジや健全な運用資産などがないと、サステイナブルでない。戦略についても短期の効果も大事だが、中長期にしっかり伸びていくことをめざす必要がある。
- ・ 金融は、現在は場所の問題ではなくなっている。金融都市大阪といっても、大阪という看板の元で取引をしているというだけ。ただ、ベンチャーファンドだとハンズオン（手出し）の支援が必要になるし、実際にリーガルな手続を対面でしていることを考えると、そういった付加価値が出てくるものを持つてくる努力が必要。

----- 6月9日(水)10時30分~12時00分 -----

【幹事】

- ・ 長期にわたる国際金融都市構想になり、2025年のカーボンニュートラルもふまえた工程になるという、これだけの大きな長期的な話となると、強み弱みの分析も大事だが、何のために国際金融都市を設置していくのかというはじめの目的の共有がいる。サステイナビリティ、構想自体を維持するための枠組み、つまり誰が主体になってやっていくのか。
- ・ 府市が積極的に尽力しているが、知事、市長は選挙によって変わる可能性もある。持続性のある推進主

体、法的な根拠によってサポートする必要がある。一番良いのは国の法律だが、出来ないとしても府市の議会の条例等で、超党派の合意を基盤に置いておかないと、途中で雲散霧消するリスクが出てくる。

- ・ 推進にあたっての目的、大阪府民、日本国民にとって何が大事か、意義をもう一度明確化するとともに、今後の推進をどうやって持続可能なものにしていくか、きっちり議論しておく必要があるのではないか。
- ・ それ以外のところは今回頂いた資料に同意だが、むしろ根本的なところで一点だけ意見しておく。

【幹事】

- ・ 国際金融都市をめざすことが、大阪の中小企業にどういうメリットや意味合いがあるのか。めざしていくゴールは大阪が活気あるエリアになることと思うが、中小企業大阪府全体が喜んでもらえるような方向にしていけないといけない。規模の大きな会社や組織に向けたアプローチのように感じなくもないが、全員一体として盛り上がっていきけるとよい。
- ・ 「人」の問題、大阪に行ったら良いこと、面白いことがあるのではないかと、「人」はキーワード。若い方、商売始めようと考えている方、外国人。人に来てもらえるようなエリアになっていきたいというのが一つ。
- ・ それに関連して、スタートアップ、起業家が大阪にいて商売を始める時に、組織やコーディネーターが支援できるエリアをめざしていったらどうかと、この二点に注目している。

【幹事】

- ・ 国際金融都市をめざす目的を共有することが必要。大阪経済にどういう恩恵があることを示すことが重要。
- ・ そういう観点では、スタートアップを集積していくということは、新しいものを作り上げて活力を生み出すという意味で大阪にとって重要な取組みである。
- ・ ビジネスコストの安さや、高等教育機関の集積など、大阪は、スタートアップが育つ土壌はあるのだろうと感じている。一方で、そういう条件が整っているにもかかわらず、スタートアップに課題があるのは、メンターのように寄り添う存在や、金融面での支援を行うプレイヤーが不足しているところが少なからずあるのではないか。
- ・ スタートアップの成長に金融が果たす役割は極めて大きい。

【アドバイザー】

- ・ 何のために国際金融都市をめざすのかという合意形成は大事。
- ・ 国際金融都市は、大手の金融機関が中心になるというイメージがあるので、中小企業の金融機関、あるいは中小企業に対してどのようなアピールできるかが一つの軸になる。
- ・ 国際金融都市を形成してきた都市は課題も持っている。例えば地価が上昇する。すべての人に恩恵があるわけではなく、どうやってその課題を補完していくのかという視点も同時に必要になる。そうでないと府民や市民にご理解いただけない。
- ・ 大枠の話になるが、国際金融都市をめざして、大阪のためにも、日本の金融業界、日本の競争力強化のためにも、東京だけでなくもう一つの金融の軸を持つ必要性はあるのではないかと。金融の強みを持つことが、大阪の、日本の経済全体の強靱化をめざすことになるのではないかと。
- ・ 例えば、サンフランシスコのように、IT 企業が集積していくことによって、金融にも影響を及ぼすという相

乗効果がみられるのではないか。サンフランシスコの国際金融都市のランキングは8位、昔はそんなことはなかった。IT と金融の相性がよかったというのがサンフランシスコの地位を押し上げてきたのではないか。

- ・ シカゴもアメリカの国際金融都市として有名だが、シカゴ、サンフランシスコ、中心であるニューヨークと、3拠点を持つことで様々なニーズに対応できるということはある。
- ・ 大阪について、データのバックアップセンターとしての位置づけは皆さんお考えだと思うが、そこにプラスアルファのものが何かできないかというのが、今回の国際金融都市大阪の構想の一つの当初の路線ではないかと思う。
- ・ とくに中小企業にどのようなアピールができるか、例えば中小企業であっても海外に目を向けていかざるを得ないと思うし、そこへのアクセスを容易にできるしかけも一つありうる。
- ・ 世界的に見た場合、サステナブルファイナンス、グリーンファイナンスのアジアの中心として育てていく、例えばヨーロッパのルクセンブルクのような位置づけもおもしろい。
- ・ それだけの人を育成できるか、集めてこられるかが、しかけとして必要になると思う。長期的な課題。

----- 6月9日(水)13時30分~15時00分 -----

【幹事】

- ・ めざすべき都市像について、エッジの効いたものをめざしていくとすると、大阪に2つのデリバティブ取引所があるところに着目してデリバティブ都市のようなものになるということもあると思うが、大阪・関西地区に投資対象となるような魅力的な企業、これが集積するような環境を作る方向でいろいろな取組みをしていく、結果として魅力的な投資対象があればヒト・モノも集まってくる、そういったところをめざすべきと思う。
- ・ ヒト・モノ・カネを物理的に関西に呼ぶという意味では、デリバティブの取引所が大きくなり、海外から注文がたくさん来るという姿が実現しても、大阪に外国の金融人材が集積されるわけではない。やはり、投資対象となる魅力的な企業が関西に集積する方向でいろんな施策を考えていくのが、地に足の着いた取組みになるのではないか。

【幹事】

- ・ 世界・日本にすでに国際金融都市がある中で大阪が国際金融都市として成長を掲げていくということであれば、既存の都市とは違った土俵で戦う必要があると思う。その観点でいくと、これから伸びていくところで強みを獲得するのが戦略上有効なのかなと考えている。代表的なところはデジタルや ESG。この2つは従来から飛躍的に変化してきたところに、コロナ禍でさらに加速している。これから様々な都市がそこをめがけていくと思うが、今は比較的ブルーオーシャン(未開拓市場)なので、ここに戦略を持っていくやり方はあると思う。
- ・ 金融とデジタルの関係では、昨今、他の産業に比べても強い変革が起こっており、デジタル活用して国際金融都市として大阪が存在感を獲得する中で、例えばフィンテックなどを中心としたスタートアップ企業の集積を図っていくことが糸口として有用かと思う。
- ・ マーケットには世界のどこからでもアクセスできる状態。新しい金融のサービスとか新しいものが生まれる場所、そこにに行けば何か得られる場所として、大阪の存在感を高めていくこと、そのためにスタートアップの集積を図っていくことは一定の価値があると思っている。

- ・ これまでの関西のスタートアップの状況を見ると、優良なスタートアップが成長の過程で他都市へ行ってしまい、最終的に関西に根付かないといったところが一番大きい。せつかくある良い土壌で実った果実が定着するような取組みが必要。関経連などが推進しているスタートアップエコシステム等とうまく連携して集積を図っていく。それが呼び水になって海外からのスタートアップが集まってくるという良い循環を、まずは国内から土壌を作っていくのがポイントとなっていく。
- ・ 企業誘致を進める観点で住みやすさや都市の魅力は外せない。生活環境・教育環境、文化・歴史、コストの安さなど、そういうところでも大阪の優れているところうまく打ち出していく。
- ・ ESG 投資が飛躍的に増えている。起債はどこでもできる。ESG 投資であれば一定の格付機関や認証機関があるので、大阪に何らかの手段でそれらの集積を図って「大阪=ESG ファイナンス・サステイナブルファイナンス」というブランディングをうまくしていくことで発展できるのではないかな。
- ・ うめきた 2 期・中之島等新しいプロジェクトがあり、こういったところで新しいサステイナブルファイナンス調達を行うなど。そういったところをうまく活用してうまくブランディングにつなげていくということができれば良いと考えている。

【オブザーバー】

- ・ 何らかのテーマに集中するとなったとき、フィンテックというのは一つの観点になる。フィンテックも現状はほとんど東京に集中している。人材が獲得しやすいということが現実論として大きい。
- ・ 現在はオンライン会議なども普通になってきており、地理的な制約は起きにくい。一方で他の都市に比べて大阪が優位を持っているのは何かというところが必要になってくるが、大阪の優位性は高いと思う。大阪ならではの面を確立すると、企業が大阪で会社を興そう、他から拠点を移そうという具体的なアクションに結び付くのではないかな。

【アドバイザー】

- ・ 強み弱みについて、軸が対世界か対国内か。例えば人件費のコストで言うと、国内では人件費のコストは高い方だが、世界の都市に比べてどうなのか。デリバティブについて、シカゴは有名だがそれと比べてどうなのか。韓国や台湾などでも大きくなっているがそこと比べてどうなのか。その軸によって強みにも弱みにもなるので、めざす都市像と一緒に考えなければいけないと思っている。
- ・ 地域経済の発展など幅広い視野で設定した都市像は一般的なもので最終形に近く、その過程として、中期といって良いのかわからないがエッジの効いた都市像がある。例えばデリバティブやグリーンといったものをめざすにあたって、対どこと比較してなのかはっきりさせると、大阪の強みと弱みを細分化してより精緻な分析ができると思う。
- ・ 加えて、オーストラリアの例を見てみると、シドニーという大きな金融都市がある一方、メルボルンがある。シドニーほど大きな都市ではないが 4 大金融機関のうち 2 つがあり、どうやって発展してきたかという、相当な経済規模・経済活動の集積がある。金融の裏側ではあるがそういう経済活動全体を盛り上げていく措置が必要で、そのためには万博やその他の機会が外せないだろうと思う。
- ・ 他都市の例でもいろいろな検討分野があるなかで優先分野を決めていて、特に注目するものをしっかり出してきている。政策についても多く考えられる中でどこなのか、それを決めるうえで大事なのはどういう都市像をめざすのかということではないかな。

【幹事長より他のアドバイザー意見の紹介】

- ・ 東京一極集中を回避する必然性や、金融人材の育成について重要視することが大事ではないか。
- ・ 世界の都市における誘致活動や規制のサンドボックス、税制、法律などの検証しながら、世界の中でどう競争力を保っていくのかということこれから研究、深掘りしていけば良いのではないか。

【検討事項② 都市像と戦略目標等の検討】

----- 6月8日(火)14時00分~15時30分 -----

【幹事】

- ・ 金融をテコに発展するまちをめざしてもらいたい。
- ・ 金融そのもので稼ぐことをめざすのか、それとも金融はあくまで手段として産業の振興につなげることをめざすのかということについて、われわれとしては、大阪への産業振興をめざしたい。大学発ベンチャーやITベンチャーなどが起業しやすいよう投資資金が集まってくる大阪にしていきたい。
- ・ ベンチャーへの助成金など、ベンチャーキャピタルの投資の形で、国際金融都市のすそ野を広げ、成長したら大阪以外に行ってしまうことのない環境を作っていくことをめざしたい。

【幹事】

- ・ 大阪はコストの安さに優位性があり、大阪にオフィスを移すインセンティブになる。
- ・ いま世界では、セントライズ(集中化)とディセントライズ(分散化)が同時発生しており、コロナ後さらに加速している。例えばニューヨークから出ていく企業もあるし、コロナ終息後はニューヨークに戻って来るということもある。
- ・ 運用ビジネスでいうと、世界のトップ5の企業でニューヨークやロンドンといった国際金融都市に本社を構えているのは1社しかない。理由はコスト。大阪の家賃は、東京に比べても半分近い。
- ・ 今、資産運用、信託業務、事務と様々な形で分散化・分業化され始めている。その典型として、ヨーロッパで成功したのがルクセンブルク。ルクセンブルグには資産運用会社はあまりない。信託業務や事務を集中的に請け負っており、結果として、所得は世界トップクラスになっている。そこで必要とされているのは、ファンドアカウンティング(資金会計)のプロ、弁護士、会計士など。
- ・ アジアでもコストを理由に拠点を移す動きがある。金融はロジスティクス部分でコストを求めており、例えばデータセンターの移転など。本社の登録地は大都市であっても、ディセントライズしているというのが実態。その受け手に大阪もなれるのではないか。教育水準の高さや教育機関の厚みがあり、若い勉強した人材が毎年輩出できる。最大の問題は現在の大阪に人材がいなくてあり、ファンドの会計の専門家や専門の弁護士、会計士などがいないと事務所を移せない。ファンドマネージャーもほぼいない。
- ・ 資産運用は成長産業なので、それを取り込むことは大阪にとって大事。資産運用会社のロジスティクス部門をコスト面で優遇して誘致を図る。その人材を移して来ることは可能だと思う。そういった人材のノウハウが伝播されて産業に引き継がれていく。それがポイント。

【幹事】

- ・ 国際金融都市を推進するにあたり、どういうヒト・モノ・カネを大阪に集積させるのかという議論かと思う。

- ・ 単純に取引所の取引代金だけを最大化させるのでも足りないし、他の一面的な数字だけを捉えるのも足りない。最終的には、実態のところの「人」が大阪に根付くことがゴールなのだろうと思っている。
- ・ 大阪の持つアセット(資産)や、アセットをベースにした、行政だからこそできる支援について、どういう方法があるのかをメインで考える方がイメージはしやすいと思う。
- ・ アメリカではシリコンバレーがイノベーションの聖地だと言われているが、近年は中西部のシカゴ、デトロイトなども、スタートアップが出てきている。これらは基本的にはものづくりのまちで、スタートアップに手厚い補助があり、お金を呼び込みやすい環境を作ってきたという地道な努力の積み重ねの上に繁栄がある。
- ・ どういうエッジのかけ方をするのか、どういうヒト・モノ・カネを大阪に集積していくのか、方向感をアライン(揃える)していくことが大事と感じている。

【幹事】

- ・ 大きな背景は二つ。国際的などという意味だと、今の日本は経常収支構造を見ていても、貿易収支が赤字で所得収支が黒字だから経常収支が黒字になっているわけで、そういう意味ではモノづくりの国ではもうないのだと思う。金融でやっていくという強い意志が必要だと思うのが一点。
- ・ 二点目、日本の立ち位置を考えると、アジアで民主主義の国というのはそんなに沢山あるわけではない。そういう意味では、アジアにおける日本の立ち位置というのは重要だと思う。
- ・ 取引は OTC (相対取引) で、外対外でも、決済だけは日本でやりたい、なぜなら民主主義の国だから、というニーズはあるはず。また、鉄道や通信だけでなく、法律の仕組みもインフラといえ、そういった強みがあるのだと思う。
- ・ ビジネスコストが安いのは強み。さらに、地域ごとの輸出額の増加率が関西は全国平均を上回っている。現物が動く土地柄であるということは大阪関西の強み。インバウンドの支出も、関西地区は全国平均を上回っている。
- ・ 高度情報化社会だから、大阪になくても良いというのはその通りだが、それは日本になくても良いという話になるので、何が何でも大阪にもって来るといった強い思いが必要。コロナ禍もずっと続かないだろうし、リモートの潮流も変わるのではないかと。顔を合わせて話をした方が情報量も多いということを踏まえれば、ビジネスコストが安いという大阪の強みが発揮できるのではないかと。どこでも良い、と言っている人こそ大阪に来てよ、というものを作れるかどうかを試されている。
- ・ 目標について、例えば取引所では売上げや利益で測るものではなく時価総額。世界第3位の経済大国なのだから、日本の取引所を全部合わせて世界第3位ぐらいにならなければいけない。
- ・ 金融は IT と表裏一体。金融が集積するというのは IT が集積すること。IT が集積することはデータランザクション(データによる取引)が増えるということだから、データセンターは、関西、大阪地区に大きなニーズが生まれてくると思う。实体经济に直接的にもたらすインパクトは非常に大きいのではないかと考えている。

【アドバイザー】

- ・ これまでの議論に興味深く聴いた。大阪の方と話していると楽しい、それも強みではないか。真剣にしっかりと話している中でいろいろなユーモアが感じられ、こういう部分の魅力がうまく表現できて金融に結び付け、結果として国際金融都市になれば良いと思った。

- ・ 国際金融センターランキングのサブインデックスの中で、法の支配がしっかりしていることやインフラのところで、日本の情報通信インフラは実は非常に品質が高いところも強み。国内で比べると優位性がないと思うかもしれないが、国際的に比較したときに大阪にはそこは優位性があると思うので、そういった意味での良さを再確認する必要がある。
- ・ その上で、大阪の人となると楽しいとか、インスパイアリング（鼓舞）や新しいイノベーションにつながりやすい「やってみなはれ」など、数字やインデックスに表れないことをどうやって実際の成果にするかというところ。
- ・ 例えば外資系企業の事務所をいくつ構えたかを KPI にするのはいかがなものかと思う。そうではなく、実質的に大阪の産業が発達した大阪・関西圏の人たちが幸せになれるような目標を上手に描けると良い。

【アドバイザー】

- ・ 関西圏には3つの大きな国立大学があり、いろいろな産業研究所がある。関西圏全体や西日本の広域エリアでみれば世界の大国並みの GDP。そういう背景があるのも事実。
- ・ 企業が実施しているベンチャーファンドのセミナーなど、もっと大阪で盛り上がっていくと良い。東京に比べるとベンチャーファンドの支援も少ない。そういった支援が広がっていき、起業するなら大阪へ、となれば自然とお金が集まってくる。競争相手がまだ比較的少ないので、そういうところに力を入れ、強みを活かせるところを活かしていく方が良い。
- ・ 住民が一体になって豊かになっていくことをめざせば、府民のサポートも得られる。

----- 6月9日(水)10時30分~12時00分 -----

【幹事】

- ・ 大阪・関西の人がどういったメリットを享受できるかが重要。「国際金融都市」なので金融の話が前に出るが、関西の各産業が成長を遂げていく、そこを金融がサポートし、結果的に金融機能が強化されていくというストーリーを描くべき。実需がない中で金融だけが発展していく姿は描けない。地域の皆様のご理解を得るためにも、金融だけでなく産業が発展していくという絵姿を見せていくことが重要。
- ・ 大阪に限らず「関西」という視点が重要。より大きな仕掛けを作っていくためには、関西広域で取り組んでいくことの打ち出しも必要ではないか。また、国際金融都市の取組みを進めている東京や福岡といった国内の他都市との連携も重要。
- ・ 戦略目標は、国際金融センター指数がブラックボックスなのはご指摘のとおりであり、高めたい機能に関する見えやすい指標を採り入れる、という方向性は良いのでないか。
- ・ 戦略の期間について、長い取組みになるので、最終的なゴールが2050年くらい先の話になっても良いのではないか。

【幹事】

- ・ 現在の資料では都市像の前に、SWOT 分析をもとにした方向性案を示しているが、その後の都市像との関連性が見えづらい。最終的なとりまとめに向けてSWOT分析の枠組みを使っていくのがよいかどうかということは議論する必要があると思う。
- ・ 何のために国際金融都市をめざすのかが非常に重要。一点は公益性、もう一つは大阪だけでなく関西

という視点から、広域性。この二つが重要。

- ・ これを踏まえた上で、漠とした都市像で前に進むのではなく、都市像はイメージなので、コンセプト、イメージ像を絞り込む必要がある。その際、階層を意識した方が良い。
- ・ 時間軸については、議論的には最後でよい。個別の取組みを踏まえた上で何が土台になるのかを議論すべき。
- ・ 土台を作るという意味では、平面的に都市像を並べるのではなく、立体的に考える必要がある。例えば金融のフロントランナー、金融をテコに発展をめざす姿とするのであれば、それぞれに役割があり、育む、呼び込む、支えるという枠組みで、立体的に検討する必要があるのではないか。
- ・ そうしないと、重点取組の中で、本来なら金融の切り口から言及すべきところが、いつの間にか人の誘致だったり、スタートアップ企業の誘致だったり、産業政策、都市政策になってしまい、金融の切り口はどうなったのかとなる。階層や内容を整理しながら進めていった方が良いと思う。

【幹事】

- ・ 都市像の観点から3点、期間について1点発言する。
- ・ 都市像については、国際金融とは何かの定義がぼんやりしている。目標をどこに置くかになる。産業と金融は両輪だと思う。また、人材育成は非常に大事になる。ヒト・モノ・カネ、産業と人材育成、金融は三位一体で検討していくことが大事。これを踏まえて国際金融都市とは何かを考えていく必要があるというのが一点。
- ・ もう一点は、アジア・クロスボーダーハブ都市について、関経連が推進しているABCプラットフォームという素晴らしいものがある。これを大事にして、大阪はアジア地域の、日本におけるアジアのハブ拠点都市として位置づける必要がある。アジアとの連携は必要になってくる。特に、アジアの中でも金融都市はシンガポールであり、中国の上海であり、香港もそうだが、そういう都市との連携は大事。
- ・ 三点目については、インフラ、まちづくりの観点。国際金融都市をめざすにあたっては、海外から様々なビジネスが集まってくるし、家族も来る。家族に対する教育機関、教育施設が大阪に揃っているか、居住環境が大阪・関西にあるのかと議論すべき。
- ・ 海外から企業が来た際に、こういう環境でもリモートワークプラスリアルオフィスのオフィスも必ず必要になってくるので、ハイスペックなオフィスをどこにどう作るかが大事になってくる。
- ・ 期間については、万博を目標・契機に、とよく聞かすが、万博は通過点である。万博をめざしてやっていくのは大事だが、万博の後を見据えたうえで長期的な視点で検討していく方が良い。万博はあと3、4年なので、ある意味短期的スパン。10年15年、20年後のあるべき姿を考えた上で議論してはどうか。

【幹事】

- ・ 金融と産業が両輪であることには同意する。その観点では、今の戦略目標の立てつけが国際金融に寄ってしまっている印象がある。産業育成の視点をより印象付けるのが良いのではないか。
- ・ 例えば、大阪圏の経済発展のためにフィンテック分野が重要だというロジックから、まずはフィンテック企業を誘致し、この分野が育成されて市場規模が成長する中で金融を活かしていこうという方が、多くの人に分かりやすいと思われる。
- ・ 「国際金融センターをめざすことで(中小)企業にとってのメリットは何か」という点では、海外からの資

金が活用できるということがあるが、他方で海外マネーやファンドに対して日本企業が過剰に反応することもあると思う。その意味でも、「産業を育てる中で国際金融センターの機能を成長させていく」という方が地元の住民や企業からの納得を得られやすい。

- ・ 時間については、3年、長ければ10年15年ということの良いのではないかな。

【アドバイザー】

- ・ 国際金融都市像については、シンガポールやロンドンの国際金融都市像とは違って、産業と一緒に、両輪で進む都市像で合意された印象をもった。大阪の歴史的な背景、これからの未来像も、産業と金融が両輪で動くべきだという意見であった。
- ・ 私もその方向性が一つの切り口になると思う。シンガポールやロンドンとは違う国際金融都市像があっても良い。それに近いのが、サンフランシスコのITが先にある金融がついていった形であろう。
- ・ 国際金融とは何かに立ち戻るが、国際金融の取引自体で言えば、端末を置けばできないわけではない。しかし、それでは国際金融都市は作れないし、人材が集積して、周辺に様々なサービスがいて、フィンテックも含めた周辺環境が整っていく、それが国際金融都市としての機能が強化されていくということになる。そこには弁護士や会計士も含めて英語で取引できて、様々なサービスが提供できるものが必要になる。一つのめざすべき都市としての国際金融都市となっていく、そこに大阪の産業が絡んでいくイメージだと思う。
- ・ 居住環境は後回しではいけない。とくに教育、インターナショナルスクール。子弟がどういう環境で教育を受け、日本や世界のトップ大学に進む道筋が見えるようなインターナショナルスクールがないと、家族を連れて大阪に来ることは難しいかもしれない。
- ・ 居住環境、直接的な国際金融のサービス、オフィス環境、都市機能を充実させていくことが国際金融都市像なのか、プラス大阪の産業とのリンクをいかにつなげていくのか。国際的な成長融資として、投資をしてもらって、大阪の企業へ流していく仕掛けにしていくのか、切り口として考えていく必要があると思う。

----- 6月9日(水)13時30分~15時00分 -----

【幹事】

- ・ SWOT分析について、本当に強みなのか、逆に弱みになるのではないかなということもある。今は「これもやったらどうだ、あれもやったらどうだ」という段階かもしれないが、「これはやらなくて良い」という議論をしていった方が、意外とコンセプトを明確化にするというところにたどりつきやすいと思っている。
- ・ 結論から言うと、国際金融都市として考えたときに大阪はレジリエンス(復元力)面で東京のバックアップに徹するかたちで、人材面、優遇面、インフラなどを検討すると大阪独自のエッジが立つ。世界から見て、大阪は完璧に東京をバックアップしていると、データセンター、IT人材養成も含めてそういう特徴を出せば良いのではないかな。
- ・ 香港では専門性の高い金融人材が多く、プライベートエクイティ(未公開株式)のビジネス等幅広い投資機会が提供され、有利な税制もある。この3つのポイントがあって発展していると思う。超富裕層がいて、そこに事業承継等のビジネスが生まれてきやすい。また、サステナブル取引に関しても、香港にグリーン・サステナブル取引所がすでに設立されている。他都市を参考にするのは良いことだが、大阪にしかできないことを考えたときに、他でやっていることが大阪もできないかなということよりも、東京のバックアップという形で人材面・優遇面・インフラ面でエッジの立った都市をめざすのもひとつの考え方と思う。

【幹事】

- ・ 金融と産業の両面で考えるべき。イノベーションを支えると金融もついてくるという考え方。これが成立するためにはイノベーション企業を支えるリーガル（法律家）や会計士のサポートが前提になるとすると、金融を切り口にこういった専門家を集めていくことになると思う。
- ・ 証券管理業務に集中することで金融の専門人材が集まって成功しているルクセンブルクの事例等も出ていたが、東京一極集中の業務を切り分けて、レジリエンスの観点でも大阪にその機能をしっかりと置く、ミドルバック（金融の営業部門と事務部門をつなぐ部門）でも良い。ファンドマネージャーは東京にいるがミドルバックは大阪とすると、弁護士・会計士といった専門人材が大阪に集まってくる。こういった方々がイノベーション企業をサポート等していくことで、イノベーション企業もビジネスコストが安いことや金融の専門人材のサポートも受けられるため集積され、大阪の産業振興につながっていくと考えている。
- ・ また、金融人材が家族と移動することを考えると、夢洲の万博跡地を特区にし、高度医療機関や国際ナショナルスクールを誘致する、特区と両輪で動いていくと、良い方向に動いていくのではないかと。

【幹事】

- ・ みんなのイメージがバラバラの可能性があるのでとは感じている。わかりやすさとして万博の跡地に一定のものを集積することを表明するとか、特区申請をしていく上での税制やビザの手続きはこうすべきなど具体的な内容を早めに決めていくことでイメージの統一化を図ることが、最も急がれることではないか。
- ・ 取組期間については、世界中が注目している万博を一つの大きなタイミングととらえ、万博に向けて何ができるか、また万博後夢洲の跡地をどうするかを表明することで、万博とともに国際金融都市を世界に打ち出していけるようなPR・取組みをやれば良いと思う。

【オブザーバー】

- ・ 大阪を国際金融都市センターにするために何をすべきかであるが、デリバティブ取引をする際に支払手数料、業者への手数料、利益が出たときにかかる所得税等は確実に発生する。取引を大阪に呼び込むことを考えると、府でできるものではないが、世界の他都市をみると所得税がゼロとか非常に低額とかいうことで世界中から資金を呼び込んでいる。
- ・ 数字上の取引は世界中のどこでもできるが、例えば商品先物取引のような品物を原資産としたデリバティブ取引であれば、差金決済もあるが、受け渡し決済もある。大阪でなければ受け渡してできない商品を組成することができれば、取引をおのずと大阪へ持ってこられる。日本あるいは大阪独自の商品や大阪でなければ受け渡してできない商品を組成することが、国際金融都市の一路になるのではないかと。

【アドバイザー】

- ・ 大阪にしかできないこと、弱みを把握してそぎ落としうえて大阪にしかできない、エッジが効いた取組みを探していくことは大いにあり得ると思う。
- ・ そういう中で出来上がってくるのが特定分野にフォーカスしたエッジの効いた都市像だと思う。まずはこういった像を分析の中で見つければ良いのではないかと。そのうえで、集中すべき分野はどこなのかを考えればと思っている。
- ・ さらに、踏まえるべき視点として府民・大阪経済への還元の視点というのがあるが、この国際金融都市の

構想が大阪・関西のブランドや大阪経済の発展に資する必要があるのはもちろんであるし、最終的には関西圏の住民にどんな恩恵があるのかを打ち出さなければいけない。特区で減税となると、一般の方からすると外資系金融機関、海外富裕層のイメージを持たれており、優遇じゃないかと思われる。具体的な数値の試算を出すかどうかは別として、府民にいかに関係があるのかということ、しっかりと打ち出していく必要がある。

- ・ 万博の時にどういう絵姿を出していくのか、その後どうするのかといったことと合わせて、いかに住民の恩恵になるのかということを知りやすく説明する必要がある。
- ・ 戦略目標について、国際金融センター指数はブラックボックスなところがあるので、より当該分野との関係性が明らかかな個別指標を設定するといことで良いのではないか。一方で、資本市場の活性化だと、デリバティブ、株式の取引量の増加、もしくはフィンテック企業数等あると思うが、文化の多様性などについてどういう指標があるのかという問題もあるので、アンケート調査等になるとしても統計的に有意な指標にする必要がある。

【幹事長より他のアドバイザー意見の紹介】

めざすべき都市像について

- ・ 国際的な視点をもっと入れた方が良いのではないか。
- ・ 金融そのもので稼ぐことをめざすのか、それとも金融はあくまでも手段で、大阪の産業振興に繋げることをめざすのかを意識する必要がある。

戦略目標について

- ・ 国際金融都市のインデックスを追いかけるのではなく、大阪のめざす国際金融都市像からストレートに戦略目標を策定した方が良い。
- ・ 世界の他の国と定量的に比較できる戦略目標が必要。

戦略の取組期間について

- ・ 短期・中期・長期で設定の上、PDCAを回していくべき。

検討事項③ 戦略の柱(重点取組)の検討

----- 6月8日(火)14時00分～15時30分 -----

【幹事】

- ・ ひとつは大阪取引所での取引量増やすこと、大阪、関西の産業をどのように盛り上げていくかが重要と思う。
- ・ 課題をもう少し具体化していきながら、大阪に拠点を構えている各企業が集まって、各企業・産業の課題に対応していければと思っている。

【幹事】

- ・ 大阪の強み・弱みと機会を活かした取組みということで、産学連携の金融人材育成の体制づくりが非常に求められているのではないか。特にデータサイエンティストについてはすごく重要だと思う。かなり地道なことであるが人材養成は非常に重要と考えている。

【幹事】

- ・ 国際金融都市を考えた時に、大阪経済全体の発展に寄与するもの、それを支える金融が強くなっていくことという視点が重要ではないかと思う。分析の中にあるのはすべて取り組んでいかなければいけない。それをどのように重点的にするかを考える中で、大阪の強みは何なのかというなかで、直近一番見えているのはやはり万博のインパクトを活かしていくことではないかと思っている。
- ・ 2025 年に向けて未来社会の実験場を、万博を機に作っていき、大阪全体を未来社会の実験場にしていき、大阪を挙げて取り組んでいるということなので、未来社会の実験場を支える金融都市として国内外の大企業も中小企業もスタートアップも集まって、オープンイノベーション（産学連携や企業の共同開発等）を実証実験して、ビジネス作りを支えていく。例えば、そのための初期段階での資金調達なのか、プロジェクトのファイナンスをしっかりやっていくということなのか、あるいは ESG 投資ということなのか、そういう視点での未来社会の実験場を支える金融機能を強くしていくという部分と、フィンテック（金融サービスと情報技術を結びつけた革新的な動き）分野でのいろいろな実証実験を受け入れられる大阪という、大きな 2 点から取り組んでいくことを重点にしながら、そのための人材育成や、他の都市ではできない実験のための特区やスーパーシティなど規制緩和もしっかり大阪で進めていく、支えるための仕組みが重要。
- ・ 何から取り組んでいくのかということところをこのメンバーの中で整理していければ、大阪の他の企業や府民・市民の方にも伝えていきやすくなると思っている。

【幹事】

- ・ 何が目標なのかということについて明確には言えるわけではないが、あくまでも大阪の産業や経済が発展していく、それを支えるための国際金融機能ということだろうと思っている。それを実現するために何が必要かということになると、人材を集積させていくということがそれにつながるのではないかと思う。

【オブザーバー】

- ・ 必要なのは、企業・投資家の積極的な誘致、経営人材の育成、安全安心なまちづくりの中で金融をうまく活かしていくことと考えている。
- ・ 今後、新しいセキュリティトークンを活かした新しい金融商品、小口のもので多様な投資家・多様な資産が出てくることに非常に期待している。

【幹事】

- ・ 取組みについては、まだまだ具体性に欠けていると考えている。人材育成や誘致について、誰がどのようにそれをやるのかということをお話し合わなければいけない。
- ・ 具体的なアイデアについて行政が実施すべきことをいくつか言った。具体的に何をするかを考える会議にしなければいけないと思う。

【アドバイザー】

- ・ 具体性がないという意見もあったが、私は結構具体的だと思う。ただ、書かれていることを 1 個 1 個取り組めば国際金融都市になるのかと言ったら、その道筋ははっきりしない。

- ・ 金融というのは基本的には他人のふんどしで相撲を取る商売である。金融そのものが富を生み出すことはあまりなく、他の産業を支えるもの。株式市場や銀行による融資、預金の取扱い、そういうものが金融であり、その国際的な担い手になって国際金融都市になりましょうというのが今回のコンセプトだと思う。
- ・ 将来金銭的価値が上がっていくものをつくり出すことが可能になるのが金融の良いところ。株式市場におけるベンチャーへの投資などがそう。ただ、人の予測は完璧ではないので、モノになるものとならないものがある。金融はどうしても虚業的と言われる部分はあるが、金融というのは実は世の中を動かす非常に大事な仕事。
- ・ 日本ではものづくり重視で、虚業は駄目だということを言われるが、金融がなければ株式会社もないし、企業がお金を借りることもできない。国際貿易など様々な経常収支、貿易外収支がプラスになっていること考えれば、これから日本が生きていくためにも金融というものはなくてはならない。金融の力によって日本という国が成り立っているのが事実。
- ・ ものづくりなど具体的に目に見えるものだけが正解というところから、金融はその先を読む力が要求されるのでそういう意味では難しい。また、金融は具体的なイメージが描けない。そういう難しさを乗り越えていって上手に結論を出していく。
- ・ レジリエンス(復元力)や安全・安心といった話の中で、東京のバックアップとしての大阪ということは、みんなすでに認識していて広く行われているので、今からそれを強調してもそれで国際金融都市になるのかなと思う。東京のバックアップは必要だがそれを強調するのは違う。
- ・ アジアの他の都市と伍していく、競争していくのは大変だと思うが、金融の世界で新しいチャレンジを作り出すような規制緩和というのもフリーランチ(無償)ということはありません、何かとのトレードオフ(引き換え)になる。トレードオフをどうやったら大阪のためにマキシマイズ(効果の最大化)できるのかという視点が大事。新しいイノベーションを作り出してもらうため、金融に上手に相撲を取ってもらうための仕組みを作っていくという発想が大事と思う。

【アドバイザー】

- ・ 大阪府・市がまず自らやれることを考えてはどうか。他の事、例えば規制緩和は国レベルなので何年もかかる。取組期間についても、まず府市だけでできることや府市と経済団体でできるものなどについて、具体的なめどを立てられてはどうかと思う。グリーンボンドなどは、全国でいろいろ出てきている。府市もESGやSDGsをやっていくことになれば、そういうファンドで日本一となり、これを出すために弁護士や会計士などが大阪に来てくれるなど。あるいは、企業に対してグリーンボンドのストラクチャーに補助金を出すなど。例えば府市で「1年以内にこれが実現できる」ということを並べてもらうことが重要ではないかと思う。
- ・ 長期の課題としては強みの中で「大阪人気質」というものがある。大阪の人的資源を高めていくためには小・中・高校での教育を高めていくことが非常に大事。日本は金融リテラシーが他国に比較して低いといわれている。その中で大阪ではリスクマインドがしっかり育成できているように、中学・高校からしっかりやっていく。そうするとリスクのあるビジネスの相談をするなら大阪で、となっていくのが幸せな道ではないかと思う。

----- 6月9日(水)10時30分~12時00分 -----

【幹事】

- ・ 戦略の重点取組について、どういったことを柱にしていくかは、目的を共有化してそれとセットになっていくと思う。各論のところを今の段階で詰めるのは難しい。出すべき論点は出ていると思う。
- ・ エッジの効いたものをめざすのならば、強みと機会のあるところに集中するとか、目的が共有できればある程度戦略を絞ってやっていくことも、一つの視点、手段としてありえる。
- ・ 金融だけで考えるのは難しいので、産業も含めて、また、大阪だけでなく関西の視点も重要。

【幹事】

- ・ もともとロンドンも国際金融都市になろうと思ってなったわけではなく、本来貿易都市だった。国際金融都市は結果で、地元の納得感、メリットは何かということ。関西圏全体の経済が良くなる、そこにモノと人とお金が集中する形にもっていかうという話。
- ・ 大阪に行けば面白いことができそう、制度的なところで、「やってみなはれ精神」が発揮できそうだとすれば、その結果として人が集まってくることによって賑わいが生じ、サポートする弁護士や会計士も必要になるし、新規技術開発にはお金が絶対必要で、投資家が必要になるというように、ひとりでに流れてくる。フィンテックやスタートアップの議論があるが、エッジを立てていくと、ひとりでに国際金融都市になるのではないかという気がする。
- ・ 個々のアイデアはいろいろあり、全部やれば良いと思う。やるべきと言っている人がどうぞやってくださいと。あとは、国とか府市でできること、ネックになっていること、サンドボックスはそうだが、公共性を持っている行政しかできない部分。過去の国際化の議論でうまくいかなかったのは、打ち上げるのは良いが、実際に来てみたらあれもダメこれもダメと何もできないとなったからではないか。旗を揚げるとともに、今度は違うという、住居や学校を含めて、個別のルールに縛られてできないではなく、そこは違うよという整備を、行政でしっかりやらしてもらえたら。
- ・ まずは国際的なマップに大阪を載せること。販路の開拓ができるとか、新しい技術を持っている人と提携ができるとか、流れは一方通行ではなくて、両方向ある。
- ・ イギリスがやろうしているのは地方創生。例えば先端技術開発のクラスターをグラスゴーに集めたり、北アイルランドはベルファスト、ウェールズはカーディフを中心に地方創生等の活動を積極的に行っている。彼らは海外に出ていきたい。そういうところとうまく情報交換のルートを作ってみるとか、先端技術はシリコンバレーだし、アジアとの関係をどうするかもある。啓発活動の体制づくりをしながら国際的に目立つものを、いろんなものを活用しながらやっていくことが大事。
- ・ 期間については、シンガポールのように国自体が存立基盤としてやっているところは永続性があるが、政治リスクを考えたときに、納得性があって長期で走れるような岩盤にしないと、企業や経営者はそこに協力するのは難しいので、長い方が良いというのは賛成。2050年のカーボンネットゼロにアンカーをかけたおくことが、今できる一番長い時間軸になる。

【オブザーバー】

- ・ 金融が置かれている状況を踏まえて議論すべきと思う。高い目標を設定するのは良いが、あまりにも飛躍的で実現不可能なイメージが独り歩きするのはいかなものか。
- ・ 今から 30 数年前に関空がオープンする前、どうすればアジアのハブ空港になれるかということ、その当時のハブであった世界の他都市に聞いたところ、まずは日本国内でハブになるための整備をしないことには、東アジアや世界のハブにはなれないと言われた。

- ・ 大阪の金融、銀行業務を見ると、例えば、平成3年3月の数字だが、大阪に民間銀行は102行あったが、今は58行。合併もあり、多くが大阪から撤退した。貸出残高は、30年前は61兆円あったが、今はわずか41兆円、3分の2。唯一の強みは預金の残高で、30年ほど前の銀行の預金残高は50兆円、今は76兆円。76兆円の預金に対し、実際の融資が41兆円だから、30数兆円が大阪では運用できていない。
- ・ 金利が安いので、デジタル化の進展によって、いかにローコストのオペレーションをするかになっており、銀行業としての付加価値生産能力は低下すると思う。雇用も店舗も減る、家賃の支払いも減少する。かつて証券業界で起こったことが現在銀行業界でも起こっているし、これからは銀行の数や店舗が減ってくると思う。
- ・ そういう中でどうしたら良いか。企業、産業の活性化をやっていかないと金融もついていけない。かつて大阪・関西には、繊維、家電、素材等の産業があったが、これに代わるような柱になる企業が発展していくことが重要。起業の数を増やす、企業誘致、これらが産業の発展のためにかなり重要。
- ・ もっと重要なのは、企業数が今より減らないこと。新規に大阪に来る数よりも圧倒的に数が多いのは、廃業・休業・倒産。現在活躍している企業の存続や再生、事業承継に力を入れないと、総合力としての金融の力は落ちてくる。

【アドバイザー】

- ・ 大阪にいくと何か面白いことができるという魅力が必要だが、「やってみなはれ精神」が果たして今あるのかどうかというのが問われている気がする。いつの頃からか、大阪経済が公共事業に依存していく体質が出てきたのではないかと考えている。もう一度やってみなはれ精神的なものを生み出すためには、フィンテックだけではなく、ITなどを起爆剤にして、それを広げられるような都市像、あるいはそういう産業集積という形もありえるのではないか。
- ・ 具体的には、レギュラトリーサンドボックスをぜひ大阪でできないかなと思う。他都市でもやっているが、なかなかできていない実情があると聞いているので、それを大阪でやってみて、大阪に行けばこんなことができるかと企業を呼び込む、それが大阪経済の活性化に波及することが期待できるのではないか。
- ・ 活性化とは何なのかについて、企業数を維持しないという意見もあったが、企業数自体は維持した方が良く、雇用が伸びていかないと困るだろうと思っているが、企業がずっとそのまま長年続けることが良いかどうか、ある種の新陳代謝があっても良いのではないか。それが活性化につながるということもあるので、必ずしも今の企業を維持することが良いとは思っていない。
- ・ 新たなイノベーションや、新たなお金を取り入れてくる窓口として金融都市が機能するのであれば、活性化につながっていくのではないか。
- ・ 日本全体で長期的にみたときに、少子高齢化で今ある資産が取り崩されていくだろう。そうすると、資金量があるという日本、大阪の金融としての持ち味、強みが失われてしまう。減ってからではできないので、今強みがあるうちに議論して形にしておくことが、長期的な少子高齢化を控えた日本には重要だと考える。

----- 6月9日(水)13時30分~15時00分 -----

【幹事】

- ・ 国際金融都市大阪として、安全安心の提供というものがある。ヒト・モノ・カネが集まる場所には安全安

心が大前提。自然災害が多い日本だからこそ、そういうところをアピールすることがヒト・カネを集めるところで非常に重要ではないか。

【幹事】

- ・ 戦略の柱については、総花的なものよりいくつかテーマを絞ったほうが良いのではないか。グリーン分野は今他都市でも一番力を入れているところなので、仮に大阪でもグリーンをやるなら差別化を明確に打ち出すことが必要になってくる。
- ・ どういうところを強みとして打ち出していくか、ひとつはライフサイエンス分野かと思う。大阪にライフサイエンスのいろいろな産業集積があり、大学の知見が集まっている。吹田の健都でライフサイエンス企業のクラスターを作る動きもある。住民の視点で病気の克服といったテーマを考えていくなど、日本の今後の最大の社会課題である高齢化対策を大阪で打ち出し、アジア地域も日本から何年か遅れて高齢化が進んでいく中で、高齢化に対する先進的な取組みを将来的に大阪から海外へ輸出する、その前段階としてまずは海外のヒトやカネを集めていくという考え方もある。地に足の着いた分野で国際金融都市というエッジを高めていくというのもあると思っている。

【幹事】

- ・ 現物取引とデリバティブ取引の損益通算は絶対達成すべき。国際金融都市構想の中で、大阪だけのメリットではないかもしれないが日本としてデリバティブ取引を拡大するうえで必要だと思う。
- ・ 大阪としての差別化をこれから伸びる分野で重点的にやることは賛成。ただ、東京のバックアップやBCPにのみ目標設定していくことは残念だと思う。
- ・ 今後、金融業を行っていく上でも重要なリソース、人材は明らかにデータサイエンティストであり、その背景としてのプログラミング教育を中学・高校ぐらいから徹底的にやって、優秀なプログラマーは飛び級で大学に進学できる制度など。海外の高度人材を日本に引き付けるときには税制面での配慮は欠かせないと思うが、府民にもメリットを感じていただくことを考えると、海外人材への税制面でインセンティブとあわせて、大阪で高度なプログラミング教育を受けられるような環境を整える。
- ・ 金融業をやっていく上では法務と会計の人材が必要であるが、今後プログラミング人材、データサイエンティストという人材も必要になっていくので、そこを徹底的に強化して、データサイエンティストの良質かつ多様な人材の専門家がいるのが大阪、というのを加えていけたら良い。

【オブザーバー】

- ・ 大阪の強み弱みについて、イメージを共有するということが非常に大切。大阪は何をしていけば良くなるのか、何が得意で何が不得手なのかもう少し議論を深めていかないと、何ができて何ができないかというところぐるぐる回っていく。
- ・ 大阪とどこを比較するのかということも大切。国内なのか世界なのか、やはりターゲットや未来像、目標をもっと掘り下げていかないと、なかなか全体で話がまとまらない。

【幹事】

- ・ 金融都市を作っていくにあたり忘れていけないのは、府民へのメリットは何かというところを明確にしていかなければいけないということ。府民の理解なくしてこの取組みは進まないの、府民へのメリットを挙げ

ていくことを取組みの一つとしても良いのではないかと。

- 例えば実現可能性は不明であるが、万博に向けた府民ファンド。府民から100万円集め、それを万博の事業に投資し、その事業収入を府民へ還元するとか、収入にかかる税金部分も地域マネーで実質還元するようなアイデア。府民が何らかの形で関わり投資を学べ、リテラシー向上にもつながるのではないかと。

【アドバイザー】

- フィンテックについて、海外都市のほとんどが力を入れており、国際金融都市めざす前提条件のようなものになっている。また、一言でフィンテックと言っても、機能別でも決済、ロボ、運用、保険などいろいろ存在し、すべてカバーするような都市をめざすにはすこし遅れを取りすぎている。エッジを効かせた都市とすると、何かの分野に注力するというのであればそれに関連したフィンテック企業に力を入れる、この分野でのエコシステムを作る、という形にしても良いと思う。
- スタートアップについて、ライフサイエンス等の成長産業を中心という考え方は間違っていない。当然その分野をサポートする何かしらの施策が必要であり、資金面であれば税額控除、他国でもあるが、スタートアップ自身又は投資する側への税額控除というものもある。また、自治体のファンドがその分野のスタートアップに投資するという施策もある。
- 一方、テクノロジーという観点でも、カナダでは首都オタワでは自動運転、最大都市トロントでは AI、バンクーバーはゲーミングが強いなど、それぞれ力を入れている分野があるので、その観点を入れてみるのも良いと思う。
- ブランディングの部分は、東京のような官民共同の団体が良いのか、香港・シンガポールのように行政主体の団体が良いのか検討が必要だが、何らかの施策を考えよう。
- グリーン市場の部分は、政府でもグリーン国際金融センター、ここでの取引はグリーンボンドとトラディショナルボンドというものを取り扱うといったことを打ち出しているが、まだまだ世界との格差は大きい。その中で大阪が幅広くやると厳しい。どこに焦点を当てるのかが大事。
- また、グリーンボンドは 2020 年になってからは、少し方向は変わってきている。増加しているのは特にアメリカなどで、フランスとか中国ではグリーンも含めた ESG ボンドを大幅に伸ばしてきている。ESG とするのかグリーンとするのか、世界の状況も、グリーンは重視しつつ、発行するボンドは多様化している。
- 最後に金融教育については、金融立国や、貯蓄から投資へということで進めてきているが、なかなか定着しない。プログラミングも重要だし金融教育も重要で、中学・高校の教育課程に入れることも必要だが、結局のところ、自分の資金を動かすという視点で、やはり社会人にどういった金融教育をしていくのかが大きな論点になる。金融教育というと学生をイメージするが、もう少し幅広く考えた方が良いと思っている。

【幹事長より他のアドバイザー意見の紹介】

- 金融リテラシー教育を含めた人材育成が必要。
- 大学だけでなく中学・高校の早い時期から金融リテラシー教育が必要である。
- 人材については、高度の金融スキルをもった人材の招致が必要。
- スタートアップ企業の発掘や育成も重要。起業家・投資家誘致のための環境整備として税、規制緩和や

レギュラーサンドボックスについて府市で国と調整しながらやっていくべきではないか。

3 閉会

【幹事長】

- ・ 幹事、アドバイザーの皆様からいただいたご意見については、今作っているたたき台をさらにブラッシュアップしながら、皆さんとさらにコミュニケーションを図り、共通目標に向けて作っていきたい。
- ・ 第1回幹事会で幹事、オブザーバーやアドバイザーのご意見を参考に、戦略骨子素案として整理し、次回7月中旬ごろに第2回幹事会を開きたいと考えている。第2回幹事会で意見の反映をご確認いただき、その後、戦略骨子案として8月に第1回の役員会でお諮りし、最終調整したうえで8月中旬から9月に総会で大きな方向性を戦略骨子として確認し、そこから年度末に向けて正案化に向けて検討していきたいと考えている。非常にタイトなスケジュールとなるが、このように進めていきたいと考えているところ。